明治三十三年二月二十五日

女學雜誌

第五百六號

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

第五百六號目次

◎社說
韓海問題

◎亞米利加だより
米國通信(第五回)……櫻井鷗村
加州婦人協風會　非戰爭論　グレイ夫人　デユウエー將軍、及其新夫人

◎開書
呈バックストン閣下書……青柳猛

◎家庭
花園小草……紫琴女
裏門の用(賢様のつぶし是は奧様、お錢に ならぬ學問)
某家の見舞……某女

◎評論
拜金即非拜金……山形東根
夜叉鏡(第二回)……黑光女史

◎女學
夫婦哲學
兄妹弟姉の愛

◎雜錄
美術家と戀愛……有實
留守宅(新体詩)……友
清舟先生高談
若松賤子君四周忌日……紫苑山人
懷梅永
徒梅をよみて……若竹の子 小出不隱花

◎隨感
朝聞道而夕死可

◎寄書
中央文壇の二大異彩……朝天行
(内村鑑三と高山樗牛有美)

◎時報

社告

◎本誌は毎月二回即ち十日、二十五日の兩日を以て發行す

◎十日發行の分は稍や平易實際の記事を專にし、第一、家庭の整理改善に益あるべき事項を主として、其他、文藝、史傳、問答等の諸欄に重きを置き、二十五日發行の分は、女學宗教及び教育等に對する吾儕の卑見を陳述し、大に世上君子に間はんとするが旨とす。

◎單に十日發行の分のみ又は廿五日發行の分のみと指定して所望せらるるものあらば其の需めに應ずべし

●女學雜誌定價表●

前金	一冊定價	拾錢
	半年分定價	壹圓拾錢
	一年分定價	貳圓

(内國無郵税)

◎代金は總て前金にて御注文ありたし◎年來引續購讀の諸君にて前金切れ候共御斷無之間は引續き發送するとも可有之事◎但し其節は總て一冊十錢の割にて計算し追て請求可致事是れ稍に不本意乍ら計算の煩はしさに不得止右樣仕候間かねて御承知置被下度候

廣告料	一行(廿二字詰)一回	前金拾錢
	同　三回以上	一割引
	同　六回以上	二割引

送金　送金は東京巣鴨郵便支局に宛て小爲替にせられたし、郵便切手にて送らるる人は總へて一割増にて計算せられたし

明治三十三年二月廿三日印刷
明治三十三年二月廿五日發行
發行兼編輯人　巖本善治
印刷人　和川孫市
東京府北豐島郡巣鴨村字庚申塚二百四十六番地
發行所　女學雜誌社
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所　株式會社秀英舎第一工場
(電話番町十九番)

紫の舍公告

余さきに池袋清風大人に就きて敷島の道に入りそめしより、おぼつかなくも、たどり來りしと茲に數年、やゝ諸家の說を聞きつゝも、殊に香川翁の高見に推服する所あり。爾來歩一歩、ますます前途の杳茫として遼遠なるに驚きぬ。故にもとより敢て自ら得たる所ありしと云ふにあらず。然りと雖も輓近人心のいよいよ浮華に流れて、誠實すくなく、詩人の虛名をてらいて放逸なるに驚ろかずんばあらず。是れ即ち有志者と同もに、詩美神の名に於て、慨すべきの至りにあらずや。故に茲に同好の士女諸子と共に、社を結び、相共に研鑽して、斯道の機微を明らめ、あはせて詩美神の祭壇に跪きて、心より誠實の牲をさゝげんとを期す。是を以て、先進者には指導せられ、後進者とは共に相提携して、道に進まんとす。是れ本會の要旨なり。豈別に他意ありさせんや。

寄稿者は、左の條件を知了せられたし、

一　元と余暇を偷みて從事するものなるが故に返稿は事情の作す限りに於て速かなるべきと

二　佳作と認めしものは之を女學雜誌欄上に掲載して同好の人に割愛すべきと

三　返稿の爲に、相當の郵劵を送附せられ度と但し前述せしが如き旨趣なる故に敢て期定の報酬を要せず、友誼の爲さては、賜るも可なり。賜わらざるも亦可なり。

東京駒込郵便區、巣鴨村庚申塚
紫の舍あるじ　湯谷紫苑

おもふこら袖ふりはへてむさしのゝ
むかしのゆかりいてて見ましや

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

第五百六號

明治三十三年二月廿五日發兌

社説

鑛毒問題

甚はだしき哉天下、緩急逆行の烈しきとや。志士徒らに眼前儀文の空論に忙がわしくして、實地切迫の活問題を念とせず、是れ餘りに奔命に勞して、邦家の生命に苦慮するとの薄きが故なり。囂々たる輿論、紙と同もに散亂する間だに、蒼生塗炭の疾苦に哭して、其聲聞かれず、悲しき哉。

今や、鑛毒被害地の民一万人、止むを得ずして起つ。此に於てか眠れる人俄然として目覺め、初めて叫ぶ『先づ調査すべし、々々々々』と。豈に何ぞ調査の必要あらんや、少しく事歴に顧りみば足れり。

抑そも、鑛毒問題の少こしく警告せられしは、明治十三四年の交を最初となす。然れども、其の初めて天下の訴台に向つて告白せられたるは、帝國議會開會の後一年にして、今を距る十年即はち明治廿四年となす。時に一千餘名連署したる沈痛なる請願書は農商務大臣陸奥宗光に呈出せられ、議員田中正造は第二議會に於て慷慨にして愼密なる質問書を當局大臣に向つて提供したり。

爾來、田中正造は年々質問を止めず、被害地人民亦歳々請願を止めず、只但だ廿八年日清戰爭の危機擧國一致を要とする時に於てのみ、其聲を聞かざりき。

豈に只だ質問と請願とのみならんや。被害地人民の蜂起したると數回、蜂起せんとしたると幾回なるを知らず、能く之を鎭撫し、慰安したるものは實に田中正造にあらずや。一夜雲龍寺に集るもの五千人、遂に京に入るもの八百人、前きに破袍草鞋の徒群を爲して都門を驚ろかしたる記臆はすでに志士の忘擲したる所ろなるか、現に是れ四年前の事にあらずや。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

而して、大磯に遊び、鎌倉に遊ぶ程の短距離すらわらざる被害地に向つて未だ付て調査せず。今茲亦曰く、調査々々と。嗚呼何んぞ調査の疎忽なるや。

然れども、調査は今更めて必要にはわらざる也。茲に左の事實を回顧せば、直ちに思諒明白なるべし。

見よ。明治廿四年以來年々絶叫せられたる鑛毒問題は、明治卅年に至りて初めて政府を醒まし、其三月廿四日に於て足尾銅山鑛毒調査會、内閣に設定せらる。當時の委員如左、

委員長	法制局長官		神鞭知常
委員	内務省土木技監	工學博士	古市公威
同	内務省衛生局長		後藤新平
同	大藏省主税局長		目賀田種太郎
同	農商務大臣秘書官		早川鐵治
同	農事試驗場技師		坂野初太郎
同	農商務省技師		細井岩彌
同	同		和田國次郎
同	同		小寺房次郎
同	理科大學教授	理學博士	小藤文次郎
同	宮内省御料局技師	工學博士	渡邊渡
同	醫科大學教授	醫學博士	坪井次郎
同	農商務省參事官		織田一
同	農科大學教授		長岡宗好
同	農商務省鑛山局長		肥塚龍
同	醫科大學助教授		入澤達吉

此委員等は、周密にして熱實なる調査を遂げたるなり。而して其五月廿七日に於て、東京鑛山監督署長南挺三より、足尾銅山鑛業主古川市兵衛に對する命令は嚴然苟くも假さず、

五十日間、鑛業を停止する事

最長百五十日間に於て悉皆豫防工事を竣ゆる事

の二ヶ條の大主旨に於て、幾多の命令を發したり。

夫れ、此の命令の果して施行せられたるか否や、其の命令に順ひたる豫防工事の果して有効なりや否やの二疑問は暫らく擱きて、抑も調査の末、此の嚴然たる命令を發するに至りたると同時に、政府は左の二ヶ條を明らかに認識したるとを證するものなり。曰く、

政府は、此の命令によつて豫防工事を成就せしむる迄の長年月の間に、足尾銅山より毎日、毎時、鑛毒を渡良瀬川に流さしめ、其の沿岸に害毒を被らしめつゝある事。

故に假令ひ明治卅年五月に於て豫防工事を成就したりとも、もし既に流し既に被らせたる害毒を取除かざる以上は、其毒は依然として、山腹、川頭、河底、沿岸、田畠宅地等に山積しつゝある事。

嗚呼、苟くも常識あるものは、たとひ足、鑛毒地を踏まずと雖ども、此の二つの事實は容易に推知するを得べきなり、亦何の調査を要するとかあらん。

然るに、政府が命令したる豫防工事すら、殆んど無効に歸したるなり。其の豫防工事を成就したると同年、即はち明治三十年の九月に洪水あり。此時、水を被むりたる田畠皆な枯れたり。水によりて枯れたるにあらず、毒によりて枯れたり。其翌三十一年の二回の洪水も、翌々三十二年の二回の洪水も亦同樣なりき。此を以て明治卅一年九月の出水には、一家離散せんとするもの一万餘人、同廿六日相助けて上京泣訴せんとするもの五千人、田中正造僅かに途に要して止め、自から責を引いて強いて退ぞかしめたる事實は、衆の明らかに知れる所ろならずや。

夫れ、渡良瀬川沿岸の民は、古來洪水を恐るゝものにあらざりき。寧ろ洪水によりて肥料を得たるものなりき。彼等豈に洪水を咒はんや、寧ろ之を祈りたるものすらありし也。然るに彼等の洪水に對する今や斯の如し、而して洪波一と度び被ふ所ろ、一莖伸びず、一穗實らず。其の尤とも甚しきは、宅地の周圍十五町の田地あり乍ら、今は青菜一莖すら作り得ざるに至りしものあり(足利郡羽田、庭田氏)。魚滅して肉食ふ可らず、花咲かずして春を知らず、鳥來りて歌ふとなく、夏宵螢火のながめすらなし。慈母は、乳汁に欠乏し、小兒の唇は腫れ、老人は腸胃を病み、少年は發育せず。是れたゞ何の兆ぞ。政府、一商人に私して以て三十万人を毒するの所以にあらずや。

夫れ、渡良瀬川の魚には毒あり食ふ可らずと告諭したるは、明治十四年なりき。之より以後二十年、歳々流す所、積む所、察すべき也。たとひもし明治三十年の豫防工事をして効あらしめたりとも、もし其の既に流積したる毒物を除去するにあらざれば、何の益あらんや。然るに、政府は未だ何等の救濟方を之に向つて加へざりし也。

人或は曰はん、何んぞ自から其毒を除かざるやと。是れ農事を知らざるの言也。土地三尺に混淆したる毒土を除く既に容易の業にあらず、且つ除きたる毒土を何れに向つて棄んや。一反寸餘の毒土を取去るにも、入費十圓を要すべし、尺餘に堆積するものを除くには、五十圓以上、二百圓を要すべし。

而してこれたゞ一反歩の事なり。もし夫れ一反一町の事は或は之を能くせん。今や被害の及ぶ所ろ、一府五縣、たとひ其の厚薄はありと雖ども、大凡そ、三万餘丁に越たり。民間個々の力を以てして此より毒土を除き得べしとする乎、又其除き得たる毒土を何處に向つて棄つべしとする乎。彼の無雜作に、毒土除くべしと言ふものゝ如きは、無責任も亦甚しきもの也。

嗚呼、古川氏の富年々増しつゝある間に、政府の大臣迭りに交迭し互ひに責を讓りつゝある間に、民間の志士幾度め々々も調査々々と叫びつゝある間に、鑛毒被害地の區域亦年々に擴大し、遂に遠からずして府下葛飾の邊りにすら及ばんとする也。嗚呼、容喙の時は既に去れり、今たゞ一刀兩斷の決と、慈愛忽緒にするとなき善後救濟の手段とを要する耳。

かきにごし〳〵なば眞清水の、
　求くむ人のいかにつからむ。

古河の濁れる水な眞清水に、
　誰がかきまぜて知らずがほなる。

野　安　芳

亞米利加だより

米國通信（第五回）

櫻井鷗村（於ペンシルベニアー）

◎加州婦人矯風會

予の米國に來遊するに當り、一の最も遺憾とせし處のものは、最早十九世紀の一俊傑たりし故ウィラード女史の謦咳に接すると能はざる事なり。されどなほ女史の遺業を見て、或は驚き或は悲む事を得ん乎。女史の功業は米國に普く、而して地球の表面に布く、女史は實に近代米國の一アイドルたりしなり。女史逝きしと共に、矯風會の事業、頓挫を來たし、彼のシカゴの一偉觀として宏大壯麗なるテンプルも、女史の屍未だ冷かならざるに、他人の手に落ちたりと聞きては、憮然として、英魂を弔するの悲情に堪へざるなり。近くイリノイス洲民によりて、建設せらるべき、女史の銅像は、其名を百世に傳ふべしと雖も、其創業の偉功、後人、能く、之を繼承するものなくんば、女史の靈、焉ぞ慰め得んや。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

されど、婦人矯風會なるものは、米國各市町殆ど到處に在り。曩に予の桑港に在るや、屢々カリフォルニア婦人矯風會通信書記スペンサー夫人を訪ふて、會の事業を聞く。カリフォルニア州矯風會は、南北二個に分れ、北なるものは、即ち桑港市に在り、而して市矯風會はまた別に存置す。加州全部を合しては、地方矯風會三百、禁酒郡二、禁酒町二十六あり。全州五十七部の内十一部を除くの外は皆郡矯風會を有す。因に云ふ、本年千八百九十九年度の米國婦人矯風會大會は九月中に、太平洋岸ワシントン州シアトル市に於て開設せられたり。また万國聯合會大會は、明年千九百年五月頃英國に於て開かるべし。

◎非戰平和論

（グレイ夫人デュウエー將軍及其夫新人）

桑港市婦人矯風會長をグレイ夫人と云ふ。六十才計の寡婦なり。非戰平和主義の熱心家にして、曾て予の臨席したる小集會にて、夫人は平和運動に關する歴史と精神とを説きたる長論文を朗讀したり。また夫人の宅を訪問する毎に、談は必ず、非戰平和論に及び、マニラに對する米國の擧動を非とし、フヒリピン島民に獨立を與ふるか、若くは、之を日本に讓與すべし、戰爭の爲に莫大なる國努を費すは、なほ可なれども、無辜の民を殺すとは大に不可なり。而も最も恐るべきは、米國民の子弟、軍に從ひしもの、肉に於て死傷せしもの、其數寡なりと雖も、靈に於て滅びを召きしもの多きとなり。（戰爭の兵士の道徳を賊するの甚だしき古今の史實之を證す。マニラより歸國せる米國義勇隊に就きて、また其實を見たり。）また戰爭にすら金員を節して、教育に投ずべしと説き、或は米國が、曩に布哇を呑有したるを不可とするなど、氣焔なか／＼に盛んなりき。

顧みて想ふに、米國民は概して、今や戰爭好の國民となれりと評すべきか。メイン號は西班牙國の爲に碎破せられし以來、米民の戰爭に狂せしとよ。『メイン號を記臆せよ』との語は、キューバ島、半屬土となりて、復仇を了りし今日も、なほ記臆せらる。彼マニラ灣頭に、オリンピヤ以下六七隻の堅艦を率ゐて、西班牙の老朽廢艦を打破したるデユウエー將軍は、マニラの英雄と異名せられて、到る處に歡迎せられ、九月末

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

の如き、紐育市民は、將軍の凱旋を迎へんが爲に、巨万の金を投じて、宏大なる設備をなし、或は第五街に、石材細工の大美術アーチを建設し、なほこれを代理石造となして、不朽に傳へて、紐育市の一美觀を添んが爲に、委員等、頻りに其資を募れり。また殆ど五万の男女は醵金して、將軍の爲にワシントン府に、美麗なる一邸宅を購ひ、之を贈與したり。太平洋岸の都會ロス、アンゼルスに在る一友、予に語りて曰く、デユウエー邸贈與の爲め寄附金を募集せし際、一新聞社門前に婦女の黒山の如く群集せる故に、何事なりと尋ぬれば、皆我先を爭ひて、此計畫に、多少の金を寄附して、社の取次を乞ふものなりしと。彼小都に於て然り、他の大都に於けるデユウエー崇拜熱の度、推して知るべし。また今夏紐育のみにて、デユウエーと名乘る小兒二百餘人出産したりと云ふ。デユウエー、ホテル。デユーウエー、レストーラント。デユウエー、ランダリー。デユーウエー何々と、將軍の名を冠するもの彼此の町村都會に其數尠からず。予はまた紐育第三街の或煙草屋に、將軍の木像の立揃せるを見たり。紐育市デユエー日の行列を見物する爲に、道筋の家の窓一ケの借料五百弗を値したるあれば、椅子一脚の借料廿弗なりしもありしといふ。

或は將軍を推戴して、明年改選せらるべき大統領の候補者たらしめんとする政黨屋あるとの風說、將軍の凱旋前後に囂々として、傳へられたり。然るに將軍は之を辭し、而して、本卦返りのマニラの老英雄も、あはれ脆くも亡將軍ヘーセンの寡婦の眉斧に破られて生擒せられ、結婚の約成りたりと新聞紙の風說に傳はりてより一週間餘、世上、なほ事の眞僞を疑ふものもありしに、目出度、爰に、老木も春に相生の松の綠の色變はらじと契りし新郎新婦の、其蜜月の旅行なんど、いとも樂しかりしなん。若嫁老娘の羨怨、また那計なりけん。新夫人は餘程の財産家にして、結婚衣服も四十襲の多きを新調し、中一襲八千弗を値ひせしものさへあり。剩さへ、其裁縫師(婦人)は、この多數を僅々の日數にて、仕立上げしが爲に、過勞の結果、其後幾くも無くして、死亡せり。扨て又婚約條件中には、將軍は決して劇職大統領の如きの任に候補たらざるべしとの契約もありしと。如斯デユユウエの名聲は天に迄舉げられたり。ア、遂に再、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

び地に墮つるヿ無かりし乎。米國のデユウエー熱、まだ中々の度合なりと覺えたるに、圖らざりき、俄かに、彼に對する非難の聲の囂しきを聞かんとは。十一月二十日の事なりき。デユウエーは、曩に五万の有志男女の贈與したる邸宅をば、新夫人の名前に切り換へたり。此邸宅は、實に數万弗を値ひせしものなるに、之を新夫人に讓與するに當りては、一弗の價値のものとして、一旦、書記某の名に切り換へ、書記は、更に之を十弗にて、デユウエー夫人に賣渡したるヿとなして、表面の手續を了したり。此事柄の公に知れ渡りしや、非難の聲忽ち諸處に起り、彼邸宅こそ、將軍の勳功に報せんが爲に、贈與したるものにして、彼は一生之に住居し、死後は先妻の遺子たる家督相續者に讓り殘すべきものなり。誰か、之を老後の茶呑友達たる新夫人に與ふるヿを欲せんやといひ、現に氣早の一婦人の如きは、直ちに寄附五弗の返金を乞へり。

この背德の行爲につきて、新聞紙は、種々揣摩臆測の說をなして將軍の德を傷くるものあり。されど人樣々の米國の事とて、一方に非難するものあれば、他方にまた味方をなすものあり。ニユーヨークの一富豪の如きは、デユウエーに書を贈りて、若し邸宅の件にて、寄附金返濟を申込む者あらば、一一代辯すべければ、通知ありたしと曰へり。デユウエーも、此事よりして、かゝる非難を受くべしとは豫想せざりしヿとて、友人を通じて、世上に哀訴する處あり。また辯護の地位に立つ新聞もあり。後に至りて、攻擊の鋒尖をゆるめたる新聞もありしが、遂にデユウエー夫婦の此非難に恐れて、此邸宅をまた〳〵家督相續者の名前に讓與したるにて、一先此事件は落着したるが、其後、將軍の名聲は元の如く盛ならず、大統領候補說も途絕えぬ。此事件の最中、彼凱旋門のこれまでデユウエー門と名付けられしも、建築委員等、寄附金高の減少せんヿを恐れて、これはデユウエー門に非ず、海軍門と稱して、建國以來海軍に功勞あるものゝ紀念の爲に、建設せらるゝものなりと云ひたりと傳へ、またそれまでは小劇場の幻燈にて、將軍の肖像を寫出する度每に、拍手喝采を以て迎へられしものが、彼際には、華盛頓府の一劇場にて、彼肖像の、昔に異なりて、シッシッの叱聲を加へて、賤しめられたるを以てして、如何に非難の度のはげしかりしかを知るべし。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

開書

呈バックストン閣下書

菅柳猛

今やバックストン氏の名、天下に高く、之を知らざるもの漸く少なからんとす。その稀れに東都に來りて、聖別會なるものを開くや、集るもの常に堂に溢れ、人皆ないたく感激せざるはなし。されど四五年の昔に遡ほれば、世間の氏を顧みしものや、殆んど之れなし、我れ敢て茲に先見の明を誇らんとするにあらねど、二十七年の末に想稿して知人に示したる斯の一篇あり、收覽ものは多く、しかも教界未だ傑出の法士あるを聞かざる時、我れの氏に望むところは、昔も今も更に變ることなきなり。即ち再び掲て氏の注意を新にし、また我が古き思想の面影を忍はんか。

勃古斯敦閣下

聞く、曾て沙伯、格拉古孫等の志士と共に一世に雄飛し廢奴の運動に畢生の力を揮ひ、遂に、ユニオンジヤックの飜る所一人の奴僕なきに至らしめたる偉然たる大丈夫、勃古斯敦(Buxton)氏は是れ即ち閣下の祖父なりと。閣下其血を受け其肉を分たれて生る。宜なる哉、其俗流以外に超然として意を濟生傳道の事業に注ぎ、徭然私財を擲ち、身貴族の榮位にありながら、其逸樂を希はず、恰もかのエヂプトの貨財よりも「キリストの爲に受くる誹辭」を貴しとなし、蹶然起てイスライルの子孫を顧るの念慮を起せしモゼーの如く、自ら數人の教役者を從へ萬里の波濤を遠しとせずして我邦に渡來し、しかも寒村僻地の雲州松江にその居を卜して大に斯道に致すことや。世上偷安に耽り虚榮を愛して、僅に都府傳道に躍然たらんとするの教役者續々として之あるの時に當れり、閣下しかも大英國貴族の身を以て斯業をなす、是れ既に尋常にあらざるなり。尚ほ聞くが如くんば、閣下たゞに寒村僻地にあるを以て、些も意に介せられざるのみならず、特に專ら又及び貧民の傳道に殆弱力を盡すに銳なりと。又傳へいふ、閣下の嘗てその居宅を松江に築くや、竣功の日に於て構造頗る閣下の意に反して貴族的のものなるを見、之れ貧者の來訪

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

を妨ぐる所因となりとて直ちに全く之を破毀し、新たに工を起さしむるに至りたりと。之を耳にするもの誰か閣下に對し敬意の念を起さゞらんや、否なたゞ之を耳にするものゝみならず、全ヒューマミテーも聞えざるの聲を放て閣下に感謝の意を表すべく、天の萬軍も亦翩々たる羽衣を高くエーテルに翻して閣下の徳を頌せん哉。

余の倘は京都に遊學せるの日、幸にして閣下の風貌に接し、説教壇上より閣下の口を通して迸る所を耳にするの榮を得しこと四五回、その聞常に閣下の説く所に滔々たる説教師の説教と異り、一種異様の大威力、大インスピレーションのあるありて、吾人をして轉た信仰の道に進ましめ奮興一番せしむる者あるを知了せずんばあらず、然れども是れ閣下の辯か震天動地、口角沫を飛ばし、あたる所に疾風迅雷砂を捲くの奇觀あるが爲にあらず、又整然亂すべからざる論理を以て、深遠にして凡智のよく推知すべからざる高妙なる理論を喃々するの故にもあらざるなり。閣下の言や却りて平にして、易に、或はモーセを説きナーマンを説き、或は時にポーロを談ずるが類のみ。而して聽者皆な耳を傾けて閣下の説に服す。

余が同學生の如きは一たび閣下の説教なりと聞かば、殆んど明日の日課を忘れ、何共に競て之に赴くの状態なりき。實に彼等の或者の如きは、閣下の英語に於て如何なることを談じつゝあるやをも了解する能はざるなり。然れども皆曰く閣下の説教は必ず聞かざるべからず、これを不聞に過ごすは實に忍びざる處なりと。嗚呼閣下の斯く不可思議なる勢力を吾人の上に肆にする處因のもの、抑何ぞや、これ蓋し閣下の品性の高潔偉大にして、天より降れる靈火の腔廓に炎々たるものあるによらずんばあるべからず。

我が小崎弘道君昨夏以來北米合衆國の地を踏み、現世紀に隠れなき大説教者ムーデー氏の謦咳に接するや、大に感服する所あり、ム氏を我邦に招むて教勢を振起せしめんとするの意あり、遂に本年四月神戸に開かれたる組合教會總會の決議の、同氏が日本漫遊を促すに至りたるとは、閣下の既に聞くところなるべし。余未だムーデー氏を知らず、焉ぞ其勢力如何を斷ずることを得ん。然れども余は信ず、閣下にして今もし暫らく松江の地を離れて、敢て聖公會と言はず、日本全國各地にある各派の教會を見舞ひ、足下の品性とインスピレーシ

ヨンとを以て之に臨まば、遠くムーデー氏を煩はすに及ばずして、我邦に於ける教勢不振の狀態を轉回するの端緒を開らくに至るを得んことを。誰か閣下の胸中に炎々たる靈火に觸れて、燃え起らざるものあらんや。加之全國各地に散在する至誠なく熱情なき外國宣教師諸君の如きも、亦これによりて閣下に接するを得、深く閣下の獻身的精神に激發せられ、自ら閣下に鑒み、ために省みる處ありて大に奮發興起するに至らん。然らば閣下の賜物も大なりといはざる可らざるたり。然れども、閣下の徳を陽にするを欲せざる、それ或は雲州の一隅に貧民傳道を試むを以て必らずや足れりとするものあらん。されど乞ふ且く眼を放て我邦に於ける現今の機運と、各地の教勢とを洞察せられよ。今や實に閣下の如き士の、山陰の僻地に蟄居するを止め、翻て全天下全教會を覺すべき時に非ずや。それ或は閣下に代りて松江に於ける事業を處理する、恐はまたその人あらん。然れども閣下に代りて全帝國を振動し得る者果してこれありや否や。松江の地、若し閣下に代りて事をなし得るものなしとするも、願くは暫くかの地を離れて、全帝國を閣下の眼中に置き、自ら全國周遊の途に上ぼり、大リヴァイヴァルをして我國に起らしむるに力を致されんことを。もしそれ我が忠實義俠に富む帝國々民にして、閣下が、かの敬宇先生の西國立志編によりて夙にその行を耳にしその言を眼にせることとなる大勃吉斯敦氏の令孫なることと、又閣下の非常なる獻身的行爲とを聞かば、その閣下を待つに敬畏の念を以てするや必せり。隨て愈一層閣下の說くところに重を置き、その感化の力をして大ならしむるに至るや素より論を待たず。然らばそれ或は閣下の遊說の却て其効ムーデー氏の上に至るべきや、亦預め計るべからず。近頃新聞紙閣下再渡來の報道を傳ふ。余之を見て雀躍措く能はず、余深く閣下の宗派人物(セクタリヤン)に非ずして、神を敬畏し基督と教會とを愛し、人道を尊重するの人なるを確知するが故に、敢て不肖を顧みず、茲に愚見を陳して閣下の清聽を煩はすこと如斯、頓首再拜。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

家庭

花園小草

紫琴女

◎裏門の用

○在家よりはお寺の多き或村に肉屋肴屋の出來て、是は繁昌當節では御寺方も嘸かじのお得意様かと、商人の内輪を叩けば、いふ〱どうして、お寺方では買はれ升ぬが其所は商法、裏門から、こつそり這入れば、いつ何取受時ては下さり升ると、表門より裏門の功徳は遙に大きなる皿を撫でゝ有難がりぬ。扨も裏門、裏門の世の中といふ今の世にはこんな事より、もつと大きな融通は、裏門で利くお邸のなからずや。

◎聟様のつぶし

○是娘や、今度お前を欲しいと仰越された聟様はの、何學士で、財産もあるとやら、そして男振りは、今業平、いゝゑいつそ業平より、乾とした御容貌と、半を聞かず、當世風のいと才發けたるお嬢様、疊の塵もひねるは手間な膝前め、いふ〱母あ様餘計な事の御詮索には及び升ぬ。私が願ひは、さうですね、男振りが好い程なら、壯士役者に潰せる分か、よし財産の潰しは禁にしました所で、學士ならば、肩書を除つても零にならぬといふ實力のある方か。どの途は潰しが利いての生涯を、困らさぬが請け合の聟様ならば構ひ升ぬと、きつぱりいふて退けられしに。母御は却て顔赧らめ、さて〱そなたの智恵には叶はぬ、喃旦那様、おう乃公も今更聞て感心した。もう乃公達の鑑識には及ばぬ事、彼嬢に任せて置たが好かろうと夫よりは兩親が縁談の一條ならぬ百事の顧問。さて〱當今の娘といふは、一躰どんな書物を讀んでど。夫れ迄は、生意氣を、娘よりは女學校の教科書にしてありし、夫れ取出させて、どれ〱と、晩學の笑止にも、父様母様膝突合せ、一枚宛に當節の智恵の所在を探されぬ。

◎是は奥様

○何々縣中學師範科卒業生と、素性知りたるものに聞かねば、何處の田舍のぽつと出は、奧様やら女中やら一寸分らぬ前垂掛に、ねんねこばんてん、赤兒様の乳母にてしも今少し容貌のよいのを置かれた方がと、知らぬ陰口、知つたものは氣の毒がり。何のあれでもお國では、二十圓の月給取りを、惜しや當節勘定知らぬ鈍様に縁付かれし、あのお姿に、わたら學問、持腐りは夏の日の炭團にもさせぬもの、扨々經濟學者といふ旦那殿にも似合はぬ事と、親切の評判を、鈍様聞て、呵々と笑ひ。何の乃公が百圓の收入に妻一人養はれぬものならば、二十圓の月給を有難がつて、女の手から頂戴する法もあれ。乳母と下女を省略の其外に、人手任せの世帶からは、一割にして拾圓の消えを消させぬ賢人ならば、彼是とで二十圓。是が立たぬ算法かの談判を奧様聞かれ。悲しや内助と思ひの外な、消し道具にされて居たかし、是が其上今少しの收入ある身躰ならばど、旦那殿の唯物觀より、今の日本に婦人の爲め、高等の修業所なき、非情の理屈を怨まれぬ。

◎お錢にならぬ學問

年若き學士の、是は當世ありうちの看板にして、月給取らふ積りもなく、まこと其身を學問に打込んでの研究三昧、末は世界の大學者に仲間入せう大慾からは、小の小なる金錢に頓着せず。塵埃同様の金銀に縛られては、よしや世界にありとある黄金の夫故にも、堪忍ならぬ不自由さと。其身の自由を何よりの財産に、あるものを盡しても、人の爲に雇はれての時間を割れぬ一日が、千歳の眞理を究むる一日と、工夫おさおさ忘りなき、其傍に是は又專門違ひの母親が、米噌科を擔當して、足らぬ〳〵苦しみに、頭腦を惱ますため息つくつく。やれ〳〵悴お前は何故卒業してもお錢にならぬ學問はしやつたぞ。何處の彼から誰様も、月給取りにならしやつたに、お前ばかりは一文取らず、いつ迄經つても復習ばかり、夫れが氣の滸備れやど。か愛さあまつて悔みのやうな泣き言を申さるゝ、夫ばかりには、天晴れや後世かけての大學者も、もろく我を折り、お母さま、其内お錢になり升ふ、氣永く待て下されと、借金取のいひ譯より、先づ此方のいひ譯に困られし。

◎頼朝公の眞似

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

坊や御前は好い見だから、其所にある新聞を持て來て下さいな。いやです坊はそんな事ッ、母さまが取るんです。おや可怪い、なぜお前は今日ばかしいふ事を聞き升ぬ。いゝゑ坊は今一寸頼朝公の眞似をして居るんです。ほゝ新聞を持て來て吳れぬ、夫れが何故頼朝の眞似になるのであり升かえ。でも母様、頼朝公は、ぶしよう(武將)のはじめと、昨夕の歷史骨牌にありましたらう。だからぶしようは頼朝でもしたのを坊は眞似るのですと。是はどうやら一口話にありさうな實事なり。

病家の見舞

某女

某女は米國にて、看護術を實修し、歸朝後某病院の看護婦長たり、時弊に感ありさて左の一文を認め寄せらる。

一家に病人が出來ますと、其家の何人に係はらず、隨分家内の人は、心痛致す者でありますが、其時友人が參ッて、少しの助けを致します事は、至ッて病人亦は看護する者の爲めには、喜ばしき事でござります。

扨てかゝる場合でありますから、私は見舞に參る方々の心得を少しお話し申して、是等の人々が、病家の人の助けとなり、亦病人を害せずして、却ッて慰めとなる方法を、少し御話し申あげたいのでございます、見舞人には、男女の區別はありませんが、殊に婦人が病人のある所には、先づ多く見舞に參らるゝでありますが、この病家見舞と、申ことに尤も注意致しませんと、隨分家の者に妨げをなし殊に病人の害となる事は、儘ある事でございます、各別にも重病の患者のある家に、參る時には尤も注意せねばなりません。

先づ第一に病家に參る時には家の人にあいさつを致すのです、見舞人の注意と申事は此時から初ますのです狹き家なれば、病人がいづれの間に、臥床するを知るや否やにはかゝわりません、外戸を靜かに開き、初めに家の、誰れを見る時極靜かに、明らかな口調を以て話しをする事が肝要であります、其次は、先づ内の人に、本日は病人に會つてもよろしきや否や聞きて、不都合なしと、云ふ事を聞き得て後ちに、病床に參ります。

時とすると病人が自分の親友か亦は常に遠慮なき人だと思はず自分は、人の注意を受けず直ぐ病人にあつて不都合あるまじくと考へて、充分の尋づねをしないで、直ちに病室に、行

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

く事が儘あります、然るに、かゝる關係の人なれば猶更注意せなければなりません、如何なれば、かゝる人を見る時は、病人が、平素、何分の關係なき人に、遇ふよりは却つて非常に神經の運動を促がされる者ですから、常ならぬ騷擾の思ひを起さしめます、それですから、先づ家中の人が許しました時病室に入るに、適當したる用意を室の外にて、全く用意をなすことです、尤も四季に由て其違ひはある者ですが先づ當時のごとき冬分なれば隨分さむき故に着物なども殊の外澤山にきて居りますから第一頭布、上着などは、全く室外にてとり去り、手袋等は、各別はめて居てはなりませぬ、先づ外用は全く取り去りてそれより手を能く嗽め万一病床にて、病人が手を取るなど致す事ありても決して惡しき感じを起させぬ樣注意することです今一言少し申悚きことですが隨分寒き日に、外より家に入る時は常より澤山水鼻が出ますから、病室にはいる前に、能く之を拭ひ、何も平素と變りなき樣にして病人の傍に行く事です。

茲に一つ尤も注意せねばならぬことは若し見舞人が病人の傍で暫時にても看護婦を助け或は家の人に、暫時の間の休みをあたへる爲めに、參ると云ふ時には自分の着物に、尤も注意せねばなりません、それはあまり上等の着物を着て參ります時は、例へは病人の爲めに如何に親切に、助を致し度とても此の着物を汚してはならぬと、云ふ思ひのあると自然に充分の看護が出來ぬのみならず、第一病人が若し汚たなき者がついては氣の毒だと云ふ考へをして心配を與へる時は中々大したる害を起さしむるのです今一つ着物について注意する事は成可病人を見舞ふ時は、靜かにして音のしない着物、洋服などは各別でありますが、例へばかいきの裏などにてシュウ〳〵パサ〳〵と云ふ着物をきて一起一座に音がする時に中々神經質の病人は其れが爲めに、餘程苦しがる者です。

其次は、土産物の事ですが之を持ちて行くには各別注意せねばなりません如何に病人が心安くありても如何に品物か害なき者にしても何程病人が輕少でありとも醫師の診斷を受け居る患者を見舞に參る時は土産物は持參人の權利の下になき者ですから決して如何なる場合を問はず病室内に持ち行く事亦病人の見聞きたる所に置く事はなりません之は必らず、看護婦亦は家人の者に渡す事です一言茲に申たい事は、病院に於

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て、見舞人の、あるでとにとまると云ふ事、全くこの一條であります、故に婦人がたが之を能く知り能く守らるゝ事を深かく願ふ所です若しこの規則を能く守らるゝ時は醫師の療法を助けて病人の全快を速くする事は必定ですが今いえんとする病者〻再び前苦にかへすのみならず病に由てはそれが爲めに死に至らしむる事も儘あること故に、恐るべき事ではありませんか、其れ故に、土產物を持ち來る事だも病人に聞かせぬ樣に注意せねばなりませぬ以上に申しましたるは食物でありますが。

花などを以て參ります時は、之は食物でないから不都合はあるまい却つて病人を、喜ばすのみだろふと、思ひますが成程その樣な者とは十人中六人迄は之を見て喜びますから決して惡しき者とは申しませんが之も餘程注意をせねばなりません或る病人によつては、まるで反對な事があります、突然是を見るに由つて神經の刺戟を強く受け勞れを起す事がありま
す、亦匂ひの高き花などは常には餘程好みました者でも病氣の爲めに却つて好まなくなつて居りますから思ひがけなく病室に持ち來る時は餘程心地惡しくする者です然るに是等は人の親切で下されたる者ですからその惡しき感じのあることを云ふわけには參りませんから、思はず病人に、不愉快なる、心地を與へる者です。

其次には、見舞人が尤も注意せねばならぬことですが之は十中八迄思はず、知らず、なせる大なる過ですが先づ病室に入る時には病者がいづれの部に、床を取り居るやを注意して病人の頭のある方を承知することです大方の人が病室に入る時は先づ病人の頭の方に座を取りますから病人は如何に苦るしくとも人事不精の患者の外は自分の重き頭を上げ或は首をあほむけて、見舞人に向つて話しをせねばなりませぬ之れ程病人の勞れを起す者はありませんそれ故に第一、病者の臥床して居る頭の部を見ましたら自分は病人の足部に自分の背部をむけ病人の顏に向つて座することです然る時は、患者は少しも苦るしまず勞れずして心よく見舞人と話す事が出來ます御承知の通り心躰弱はる時は躰中何れの部分たりとも弱く亦勞れ易き者ですが其內目を無理によそに働かせることは、患者の爲めに非常に疲勞を覺えしめる事です。

其次も亦大切なる事です之れは病人との談話です隨分見舞に

來る人が先づ世上の善き話しをし或は病人の精心に愉快を與へる話しなどより他人の病氣に罹りし時の話しをなすが甚だしきに至りては病氣の重くなりたる事、亦大なる手術の事などを話しまするとは、其自分が見舞つて居る病人の病氣は却つて他の病人より輕るくして之に依て病人を、慰めんと云ふ考へにて話す樣な者の決してかゝる者ではありません其時例ひ自分の病氣が輕くても其話しに由て自分もかゝる者にはなりはせぬかと云ふ恐れを病人に與へるのです故に斷然病人の前にては他人の病氣亦病者の話しなどはせぬと云ふ事を注意せねばなりませんそこで、可成的、病人の神經を勞せざる話し、即ち病人が嗚呼あの友人が再び見舞つてくるれば嬉しきと思ふ如き感じを與へる話しをして歸ることは尤も大切であります。

今一つの注意(殊に婦人)は侭あることですが臥床せる病人を見舞つて、話し中床の廻り、亦部やの内などをあまりぐるぐ見ぬ樣に注意せねばなりません可成的、見舞の間は病人の顏を見て話し用の濟む時は直ちに歸るです長く病床に居る者は隨分室の内も亂れ自分も汚たなく床も散亂してゐるな

れば、あまり人がグルぐ見まわる時は、非常に病人が心を惡しく致します。

其次に申上度い事は如何に病人と親友であるとも病人或は醫師の求むる外は、醫師の來診の時は決して見舞人として病室内に居る事はなりません、殊に、病人の容躰などを室内亦は病者の聞知し得る所にて醫師に尋づぬる事はなりません醫師は問ひに對していつわりを答へる事は出來ぬと同時に反答をすれば患者に對して不都合とみとむる時は止むを得ず後でおはなし申ますと云はれん、其時病人は容躰を聞かずとも自分の前で話されぬ事なれば必らず病氣は重かるべしと悟るならん故に是等には尤も注意せねばなりません。

見舞時間に就て少し申あげます之は多くの人が病人の事を思ふは第一にしてまづ自分の用事の都合を思ふ者ですから病者のよし惡しを考へず勝手自だい此時に見舞に參ります、尤も先方の事を許る事は出來ませぬから、朝なれば十時半より十一時半迄午後なれば一時半より三時半迄を善しと致します病人は過半朝の間は心快くあります躰溫は八時乃至十一時頃迄は各別にも昇りますまいそれなればとて朝の内に長く話し充分病人を勞れしむるなれば午後に全く力を失ひますから、再

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

び正午頃の熱度の上らぬ前に少し話す事、不都合はありますまいと思はれますそれから午後は尤も病人に由て違ひはありますが大抵の病氣は一時頃より四時頃迄熱も高くは上りません亦病人も少しは休みたる後ちなれば、自然と心快くなる者ですから其間に友人に遇ふ事は尤も都合の善い事です。見舞人の時間は輕症にても十分乃至二十分重症なれば三分より長くて十分と致します如何なる病症に係らず友人として の見舞なれば午後五時より以後一切參らぬ樣に注意致さねばなりません勿論看病人を助けると云ふ事なれば此限りにはありません、終りに一二申上げたい事は殊に病人が其家の婦人でありますなれば見舞中其家の家事向き小童達の事例令ば貴姉御病氣なれば御主人はさぞ御こまりでござりましよふなど、云ふ事、けがにも話しません樣に注意せねばなりません亦病室を出て後ち、家内の人に病人のきこえる所にて例え世間話しにても決して致さぬ樣に注意する事は必要でない樣に思はれますが病人と云ふ者は人が直接に自分の事を話してくれると云ふ事はないと申す事を知つて居りますから其人が自分の樣子を見て他の人に話して居るのではないかと云ふ事を常に注意しておりますから可成的は病人の見舞に行きたるなれば用事終れば直ちに歸る事は尤も必要です。

評論

拜金即非拜金

山形東根

方今、一家に於ても一國に於ても共に最も憂ふる所は、財政の問題となす、財政は諸般の問題の中心點をなし、其の影響する所、至大至廣、吾人の寸時も忽にせざらんとする所なり。而かも拜金の本旨は非拜金にあり、多く集めて善く散するは其經濟に非すや。古歌に

憐れなり憂きをとぶらふ人もなし
みな金の世となるぞかなしき

とあり、今は即ち是れ也、然れども拜金は終極に非ず、自由平等の眞如界に到たる途程の一里塚の如く、叉人力車の如し之を便利に使ひ價格の記號とするも目的とはすべからず。

一、富は人生必須の一大要素なり——人類の慾望を彙類すれば健康、智識、社交、美、正義及び富に關するものあり、中に孰れを欠乏するも充全の滿足を遂くると能はすと雖も、特

に今日の趨勢上よりせば、富は一切慾望中の上位を占むるに至れり、蓋し之れを欠けば他一切を廢止せざるを得ざる如き不幸あればなり。

一、時所位に由りて民族慾望の趨勢に異なる者あり＝＝則ち時代によりて社會の好尚異なるは史上に徴して明かなり、スパルタ民族は軍事に重きを置き教育の方針、社會の好尚一に此に傾きたりき、位置によりて異なるものは武士が武士道を重んじ廉耻心の高かりし如き之れなり、場所によりて異なるものは、各國、各社會に好尚の異なるものあるを以て知るに足る、

一、好尚の大勢は當時人民の生活の標準となり、行爲の規矩となる事あり＝＝戰爭の時代は戰爭に巧妙なるもの優勝し、難行苦行を以て修身の道とし解脱の方便と信ずる時代は、最も難行苦行に堪ゆるものを可しとせり、武士なるもの社會の上流に位して世の尊敬一に此に集注する時代は、農工商は下劣の者と見做され、苟且にも武士の末班に列するを最大名譽となせり、文學熱隆んなる時は文學思想あるもの最上の名譽を荷へり。斯の如く世の大勢の向ふ所に順應する者は、當時の優者なり、故に之を以て立身し生活せんとするもの輩出す

一、當時に入用なる者を有するは當時の優者なり＝＝時代と隔離すると過度なれば、當時に容れられず、當時の風潮に棹すもの以て當時の有力者なり、而して當時に有力ならざるものにして後世に有力となる者あり、之れ時勢に一歩超越せるものとす。

當今の時勢は、拜金の熱高く、貴金の念強き時代なり、富豪の世に尊まれ、人心滔々として之に赴くは素より當然の勢と云ふべし。夫れ已に此拜金風潮の流れあり、之に棹すもの上位に登り、之に反するもの下位に降るは辨を俟たずして明かなり、世人口を開けば實業と云ひ、金力と云ひ、富豪と云ふ洵に自然の勢なり。

一、拜金の趨勢の甚だしき現象＝＝金力なきものは他一切殆んど無効に歸せんとする狀あり、名譽の地は金錢の多寡によりて計算せられ、政治家は實業家の左右する所となり、議會は金力にて動搖し、慈善家は左に算盤を取り右に寄附簿を抱き、何れの社會に徴するも金力なくんば權力なし、金則ち權なり、恰も昔し武人の跋扈せる如く富豪跋扈す、金權以て萬事

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

を了するの時代なり、金あれば高位に上り、顯官となり、能き縁を結び、善知識となるは今日なり、金の聖德や尊く、萬事萬物金をもてなれる世の中なり、今の世は錢を父とし錢を子とし錢を友として人間を友とせさるなり、愚者も金あれば賢者たり卑者も金あれは尊者たり、見よ、金力の勢を以て漸次社會の上位を占むる人々の行動如何事、何事も唯此一點に歸するに至らんとす

一、拜金熱の由來如何――物と物との交易止んで。貨幣を以て交易する時代となりてより漸く貴金の思想を增せり、此交易風の變化は世界一般に通じて見易き原因なり然れども歐洲に於ては中古封建制度瓦解後を以て、此拜金熱の發生したるものと見做さゞるべからず、希臘時代は武を以てし、羅馬時代又武を以てし、中古はシバリー風、宗敎熱を以てし、其後は文學復興、人權問題、等を以てし、列國對立上より外交、軍備、財政となれり、而して此三者は商工業の貿易によるとを看破したれば、歐洲諸國は其殖民と云ひ、貿易といふも、一に商工業の隆盛を計るにあり、之を計るは財政を豐かにせんとするに出づ、之を豐かならしめんとするは、國民の心身の發達にありとなすに至りぬ、自由と道德と財產の三備を以て文明を卜するに至りしは、歐洲社會の進步せる徵なり、我邦に於ては、中古の文學宗敎熱一般に普及せりと云ふと能はさるも上流好尙は之にありき、後ち源平足利北條より德川氏に至るまで、大躰武を以て主とし、金錢を重んせざるの風あり、武士は食はねど高揚子、北條氏織田氏は經濟思想に富み、人民を安んずる一に民力の休養にあるを信じて之に任せしと雖も、物々交易の主義一般國民に行はれ、年貢は米穀を以てし人民の食を造るは農夫にして之を支配するは武士なり、故に其間親密にして位地高か（比較的）りき、斯くて一國民の食料は一國土に生する者を持て支持し、飢饉あれば餓莩道に横はり鎖國の主義を以て夢暖く經過せしが、外國と交はるに當り、彼の文明を輸入して一切彼に則らんとするに至りたれば、輸出入上に一々金錢の通貨を要するに至りぬ、或は官制改革、機械買入、鐵道布設、軍艦購入、軍備擴張其他日常の用品、西洋に仰がさるを得ざるもの多きに至り、財政大に困難し來りぬ、斯に於て軍事費に獻金するものは位階を賜はり、實業、會社、銀行に從事すれば、金銀集注す、一世の風潮

此に至りて熟考し去れば、世界は商工業の對外策を立てし外交の方針となす、我邦亦之の外に出づべからずとして、遂に貨金熱全般を風靡するととなれり。

一、財政困難の影響する所如何＝＝一家にして財政不足なるは諸害惡を生ずる根本なり、犯罪、不德之より來るもの多く、風俗頽廢、外交不振、宗教廢頽、不道德、不人情、等凡その諸害惡は之より來らんとす、「金錢は親子も他人」「地獄の沙汰も金次第」と云ひ、金なくんば一身一家一國成立すると能はず、之れ實際の事實にして吾人の疑を容るべき餘地を存せざるなり、

一、犯罪と不德とを統計すれば、貧窮より來るもの多く、一身を殺すものは貧病なり。過半の犯罪を占む。

一、又一國の財政其宜しきを得ざるにより國債過度に增加し隨て外國臣民に對する義務を履行すると能はざる時は債務者たる國の行政に干渉し其國の富源を適當に處理する權利を取るに至れり之れ由々しき大事なり土耳格、チュニス、埃及は現に他國の財政干渉を受く、支那朝鮮亦干渉を受けんとするに庶幾し、

古來の良政治家は、經濟の爲めに苦心せり、其影響は國家社會の盛衰を來すなり、故に財政上の心理の發達は國の文野を卜する第一の標準なり、野蠻人は經濟思想最とも幼稚なり、

一、不景氣の心的影響＝＝財政不振の爲め不景氣となり之が爲めに精神上に及ぼすもの舉げて數ふべからず。金なきは權力なきなり、已に權力なし、心身如何にして發達するを得べき。或は詐僞取財、或は官文書僞造、或は强盜、或は不義理或は自殺、其精神を苦惱し、其身躰を害する甚だし

然れども富は一部分なり、未だ人生の全部に非ず、自由道德財産の三備を保つて、民族の文明と稱すべし、今日は一方に偏して物質的文明を以て眞個の文明となすに至れり、之れ病的の原因なり、而かも最大勢力の財産に集注すると知らば財政心理の發達を以て國民に望むは則ち一國の隆盛を計るの道なり之を要するに拜金の目的は非拜金にあるなり。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

夜叉鏡

第二回

黒光女史

編者云く、女史の「夜叉鏡」彌よ出でゝ彌よ痛烈、一派の男子たるもの豈に顔色なからずや、左れど、前に有美君をして鬼面百相に女性を痛罵するを許したる編者は、亦た女史が今回の激語に紙面を開かざるを得ざる也、

○男子妻を撰むに初縁處女ならん事を欲すれ共、御本人は果して處男なりや如何聞かまほし。

○無趣味無風流の男は氷豆腐の如く、ゴソ〳〵パサ〳〵として水氣なく、味といふもの更になし。妻結立の髪に淡化粧して、給事をなせども、一瞥を與へず、床の間の花をさし換へたるにも心附かねば、月下に詩を口すさみし事嘗てなし。

○一日客あり、時候の挨拶を終りて直ちに立去らんとす。今暫らく、御茶をきこしめせと止むるに、客眞面目に答へて曰く御主人御不在中に長坐せば他日嫉疑を受くる恐れあればなりと、我曰く嫉妬て吳れる程の男なら賴母しけれど……客大笑してもとの座に就く。

○男の意地といふものか、世には來る者を拒まぬ代りに、行くものをも追はぬものあれど、之れ一種の痩我慢に過ぎず。

人生追ふよなく、追はるゝことなくば、豈他に樂しき事あらんや。

○今の男悪く西洋風を眞似て、形式的に妻を可愛がり、何處へも妻を携へ行くよ、鷄の如し。又は父母の前をも憚からず、衝つき合つて、ふざけたり、睦しげに話をする事が、所謂嫁姑衝突の大源因となるなり。此兩間にありて双方の釣合を取り、調和を謀るは全く男の責任なり。故にもし父母に孝に、妻に濃情ならんと思はゝ、父母の前にてはわざと疎遠をよそほひ、そつけなく仕向るが何よりの秘法ぞかし。但し、寢物語に今少し辛抱をしてくれなどゝ折々は飴をしやぶらすること、最も必要なりとす。さらば女は隨喜の涙に咽せび、本氣になつて御家大事夫大切に、ソレハ〳〵能く働くものなり。

○御前の口は臭イナーと、奥様が韮子を召し上られたのをとがめ玉へど、旦那様が、何處かの野良猫にすゝめられて毒酒にデレ〳〵となつて、御歸りなされし夜、フーと酒息氣を吹き玉ふのと同じことなり。

○男は愛嬌と御世辭さへ奉ればニコ〳〵する者なり、普通夫

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

婦の間にては、襦袢の襟を買つて貰らつた位で、一々鹿爪らしく禮をいふものなけれど、人の弱點はおかしきものなり、聊かな事にても禮をいはれぬよりは、いはれた方が心持能きもの、つまり藝娼妓がたく御氣に召す所以なるべし

○女學生上りの妻を持たる男子は能くコソ〳〵と細き所に目をつけ、他目にもうるさきまで小世話をやく人あり、飯の炊き加減より、起居振舞はいふまでもなく、子供の抱き方が惡いの、襁褓の當て方にまで、一々さしづをなさねば、氣がすまぬとは、妙な癖もあつたものなり。

○男子髭をはやすは、遠からず妻を迎へる下心を示す者なり

○あゝ鰥寡の子にも持たせまじきは田舍傳道士の夫なりけり彼は怠惰にして腑甲斐なく、不精で、貧乏で、交際が下手て人を訪問すれば、尻が長くていやがられ、碁將棊の仲間に入れても弱くして敵手にならず。何一つ取柄といふものなし。但し大食なると、殖産力の盛なるは、誰人も右に出づるものなき由。

○子のなきを氣にして、もがきあせるは、女にあらずして却て男なり。已が不攝生より招げる天罰なるを覺らずして、やけ酒を飲みて妻に當りちらすなり。

○卑劣なる男子は、交尾期の犬の如し。よだれを流し、血眼になつて女の尻をのみ臭いで歩くなり。

○一匹夫あり、頃日此世の天使聖女ともあがめられし一佳人を奪ひ去れり、身の程を知らぬしれものよ汝は已に彼女の純潔を汚したり、後光燦爛たる彼女の御前に跪きて汝の不敬僭越の罪を懺悔せよ。

○心に不滿を抱く時は、何の爲の妻ぞといふ男あり、反問す何の爲めの夫なるや。

○當世の男は女を大切にする如く見ゆれども、實際は依然之を器械視し、少し上等の下女を雇ひたる心持にて、さん〲こき使ひ、病めば即ち厄介な物なりと嘆ず。いつもながら、お有難き男樣の御眞情。

○男は御世辭に、お父さまにソツクリと、子供が自分の顔に似て居る事を云はれると大層褒められた積りで、手柄顔にホク〲し玉ふなり。

○文學者も畫工も凡て天才ある男は、如何なる謙遜温厚の君子も、必ず其仲間を惡口罵詈するが常なり、そねみといふもの、敢て女ばかりの持前にてあらざりけり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○如何なる醜男子も、躰軀長大なれば、其見惡さを誤魔化し得可きも、女は此反對なり。

○男のショールをダラ〳〵と着たのと、女がハンカチーフを首に捲附けたのとは、共に不相應しからぬ物の好一對なり

○さるクリスチアンの青年と偶然道に邂逅し、共に招魂社内を通行せしに、此人忽然影を沒しぬ。後で聞けば、知人が向ふより來りし故なりと。何故女性と相竝んで歩む事を恥ぢたるか今猶解釋に苦しむなり。

○若き男を夫に持つ程、氣遣ひで損な事はなきものぞかし。嫌はれはせまいか、捨てられまいか、顏の皺を數へて居まいか、知らぬ所に美形を拵らえて置くまいかと、片時も氣の安んずるひまなく、殊に外出されるが一番險呑で、無用心此上なし。

○男は總じて察しが疎く、御氣が附かねば、痒き所に手の屆かぬ心地せらるゝ者なり。日頃彼の君ならではと私かに思を懸けたるが、心ならずも他へ嫁し付き、猶ほ昔を忘れ難く、明け暮れ戀ひ焦るゝも、男樣の如く、私は君をラヴしますなど〻厚かましきこと云ひ出でられぬが、女の天性なるを。

方様知るや知らずや、平氣の御顏ピッシャリ進呈し度きものなり。

○今のクリスチアンの男は、却て女に對して無禮醜猥聞くに堪えぬ所爲をなすこと、屢々あり。世の姉妹等よ、クリスチアンなればとて、束の間も心を許し玉ふな。身聖職を奉する牧師さへも、外綿羊の姿を以てジリ〳〵と側ににぢり寄り、内心勃々たる獸慾を以て充され、機あれば諸姉の純潔を汚さんと、ねらひつゝあるなり、ゆめ油斷し玉ふべからず

○男の徳利肩で、ノッペリしたのと、帽子を後腦に被つたのは、にやけて厭らしきものなり。

○有美先生いつぞやの紙上に、結婚故に身躰肥滿したと仰ふせられたれど、男が肥大になる丈女は滋養分を失ひ、顏の艶悪しく、全身肉落ちて、何所となく力抜け、恰も里芋の髓木の如くなることを記臆せられ度い。

○爰に姦淫罪を犯したる結果シユワンゲルと云ふ歷々たる證跡の擧つたと假定せよ。先きに手を出すは、いつも男に極まつて居れど、世間に恥を晒らすは、女ならずや。

○男を大別して、結婚前の男と、結婚後の男との二種とす。一つは、熱情湧くが如く、時々は意久地なき迄で女に媚び、他は冷淡水の如く、壓制専横昔日の影を止めず、全然別人

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の如し嗟呼。

○自分の放蕩のために莫大の金を費す男は、必ず家にありては吝嗇にして、外にありては貪慾際限なきものなり。

○男を尻の下に敷くとて、女を悪様にいひなせど敷かるゝ位の男は、必ず意久地なくて好人物で相談敵手にならぬ故、勢ひ嬶天下ならざるを得ざるなり。豈自ら好む者ならんや。

○關西男子は色黒く、ニキビあり、小才がきいて、輕薄で、一寸女の好き相なことを言へど、其實、情を餌食にして、手巾一枚でも、女を欺しに拾ひ取らんとするもの多し。

○男に申込をして即答を得ざれば、すぐ怒り、疑ひ、自裂れるか或はリアクションを起して後を向く。男のごとく疊換をする積りならば、いざ知らず、苟も偕老をちぎらんとするもの、豈熟慮なくして可ならんや。故に、もし之ならばと思ふ男にても、可成答へを遅くなし、成可長く彼を揉ませ、迷はせ、所謂熱くもなく冷くもなき微温度に仕向けて少しは彼が我儘を愚弄してやるも、一種の功徳ならずや。其内には、彼も冷へかゝりて、ソロ〳〵本根を吐くべければ。

○男は情愛激烈の如くなれ共、猶は女子の激烈なるには如かず。今少し熱し今少し狂つて欲しいと、いつも物足らぬ心地せらるゝなり。

○當今指を第一に屈せらるゝ詩人○○も所謂根氣まけせしものか其絶頂に達せざるに、最早人生の（其作をいふ）半ばを過去らんとしつゝあり。誠に九仞の功を一簣にかくの恨なき能はず、故に或人評すらく○○の狂人にならなかつたのは幸福なれども亦狂ひ方の足りなかつた所が、詩人として尤も惜しむべき欠點なりと。

○男は女を戀するに、容貌の醜美を以てすれ共、女は只其眞實の如何に出るなり。

○餘り我儘勝手なることを為す男に、一度分娩の苦痛を味ひしめ、其滿面を笑つてやり度心地す。只一度。

○ショウペンハウエル戀愛の原理を論ずる中に、男子の戀は其性質上不定にて女子は不動なるもの故、男に向つて一婦の制を強ゆるは、人工的のものなり、故に婦人の姦通は男子に比して、最も許すべからざる大罪惡なりと斷論せり。之を讀む世の浮氣男如何に乗り氣になりて、情界を横行濶歩するかを想像すれば、悚然として怖れざるを得ざるなり。

○男は沈默憂鬱なる女子を最も厭ひ、氣さくで氣輕で、お尻も輕いのが、至極悦に入り玉ふが如し。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學

夫婦哲學

◎夫婦の關係に付いては、古今東西、種々の議論があるが、大率ね氣に入らぬ。

◎日本の古風の夫婦は、其の道として唱道せらるる所には感服せぬが、實際の間柄は如何にも麗はしい所ろがある。當世風の夫婦は、其の唱道する所ろの道に一種の理窟はあるが其の間柄の實際に美くしいものは甚はだ稀である。

◎西洋人の夫婦は至つて仲が好いやうに言ふものもあるが、夫は皮相の見解で、通常の西洋人の夫婦ほどよく喧嘩するものはない。彼等が頻りに家庭の事を八釜しく論ずるのは、必竟夫婦喧嘩が多いから、之を戒しめるの道として說いたのである。此に至ると、日本の古風の夫婦などは、中々甘まく納まつたものである。

◎然らば、日本流の古風が善いのである乎と言ふに、夫はダ

メである。何んとなれば、善いと言つたからとて決して此後長く行はるゝ筈のものでない。

◎ナゼ行はれぬかと言ふに、昔しの如く、女を輕蔑し、女を見下げたる見解が、今日の文明流義と同もに兩立する筈のものではない、昔しは「女は男よりも劣つたものであるから、之に屈從せねば成らぬと云ふ道理を楯にして妻の從順を敎へたもので、あるが、斯樣な議論は將來決して成立ち得る筈のものでない。

◎ナゼ女が男よりも劣つて居る乎。其の現在に於て劣つて居る所ろがある樣に見へるとも、夫は敎育を施こさぬ爲めであつて、無論、千古不易の相違として天から定められたるものではあるまい。

◎よし假令ひ劣つて居ると爲た柄とて、夫故、女が男に屈從せねば成らぬと云ふ道理は決してない、例へば、男子の中にも夫々優劣があるが、其劣つた男子は優つた男子に一も二もなく只た屈從せねば成らぬと云ふ道理がある乎。夫を以て推しても直きに分る筈である。

◎夫故、女が男に劣るから屈從せばね成らぬと云ふ古風の夫

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

婦哲學は、其の道理に於て間違つて居るのみならず、勢ほいに於ても、迚も今後に行はるべき筈のものではない。

◎左らば、男女は人間として同等であるからと言つて、夫婦互ひに互角同等の地歩に立ち、一家に二人の主ある如き體裁で居ては、決して一家の和睦が保てぬ。必らずや、喧嘩ばかし爲て居るのであらふ。

◎一家の和睦を保つの上に於ては、是非兩雄双び立つことを爲てはならぬ。一方が一方に從がふやうにせねばならぬ。夫は男女の性質上に優劣があるからと云ふわけではない、又、一方が一方よりも劣つて居るからと云ふ譯でもない。既に夫婦となつて、一心一躰に一家を和睦させやうとするには、相互の相談上、利益上、分勞上に於て、一方が他の一方に從がふと云ふやうに爲ねば、治まるものではない。男子が相集まつて一團結を組織せる時でさへ、相談上此の情理に則とり、む互ひに優劣なき間柄でも、假りに一人を長者に立てゝ、他は皆な之に從がふと云ふやうにすることがある。之は一和々睦の必要上からすることであるが、夫婦の間だに相約すべき筋合も丁度之と變つたことはないのである。

◎夫故、男女の優劣から説を立てゝ、女子の屈從を要求することなどは間違つた話しであるが、夫婦の和睦の爲に、一家の事業の爲に、一方が長者となり、一方が從者となり、一は命じ、他は和し、其の間だに剛柔先後の別を立てるのが即はち處世の便益で、夫婦の關係を定むる夫婦哲學は、必らずやこゝの所ろに基礎を置かねばならぬ。

◎左らば、夫婦が其利益の爲に斯樣なる區別を爲すとして、ナゼ男が長者に立ち、女が從者に立つと云ふ仕組に爲る乎、之を反對にして、女を長者に、男を從者にしては成らぬのかと問ふ人もあらうか。もしコンナ問があるならば答へる。夫は道理上差支へはないのであるが、實際、女は夫を好むまい女の氣質は、夫の上に長者となるよりも、之が從者となる方を好むものである。夫故、夫婦を互ひの相談に任せるとすれば、是非、女が從者たる方の資格を自から採るやうになるから、即はち前の如くに言ふたのである。

◎此故に、吾輩の議論では、男女は其男女たる關係に於ては決して優劣がないのみならず、優劣をつける必要もない、即はち同等である。然し、夫婦となつて、一家一身の利益を其

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

同分擔する身分となつたる以上は、之を同等同格とするとは實際に於て不利益である。故に、夫婦の道を説く段に及べば是非、女子に從順を説き、此の夫婦をして萬事に同等同格の態度を採らしむるとには不同意である。即はち、其態度は日本古風の夫婦の間柄を可とし其の道として説く哲學に至つては、優劣論を斥ぞけて、便利論を採るのである。

兄妹弟姉の愛

其母、賢にしては烈なるに、其子にして女性を輕蔑するものはあらず。

其姉もしくは妹の學術如何、氣品如何、愛情如何んは、其の兄たり弟たる男子が一生女子に對する感操の態度を定めしむるなり。

敵は他にあらずして、我にあり。女子の地位を進むるものは即はち女子なり。

姉が弟に對する愛に於て、男子は女子の愛の濃やかなるを知る。妹が兄に對する從順に於て、男子は女子の從順の可憐なるとを知る。男子をして、女性に對する優美なる思想を懷かしむる者は女子なり。就中、其家庭に於ける女子也。尤とも清潔にして、尤とも健全なる男女交際は、先づ家庭内に於て、兄弟姉妹の間に行はる。此の男女交際に未だ慣れず、此の男女交際の清き樂しみを未だ味はず、直ちに出で丶初めより只管らに他家の男女交際を要むるものは、其の心中に幾分濁れる慾情を存す。

姉妹が其兄弟に寄する手紙に於て、兄弟が其姉妹に寄する文章に於て、茲に尤とも理想的なる男女間消息文を得べし。

兄妹相慕ひ、弟姉相依る美談の今少しく多くあれな。教法師の間だに、モッシユウル、ミリエルの如く、文學者の間だにウヲズヲルスの如きありて、いよ〳〵此のかぐはしき感化を布けよ。

願くは、世上、兄弟姉妹相慕ふ熱愛の玉づさを公けにせよ。之れ實に理想的の聖戀なり。

左れば記すべし、兄弟姉妹をして斯くあらしむるに至る最大感化は、先づ家庭に於ける父母相互の相敬し相慕ふ純潔なる男女交際の影響によれるとを。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

雜錄

美術家と戀愛

有美

いまは、其名さへ打ち忘れて確かならねど、某といふ古きイタリヤわたりの畫工が畫きし圖に、艶美にしきローマの禮服つけたる若人の、見目姿やさしく優かなるがあり、素燒の花瓶を片手に持ちて膝にうけながら、躰を稍々前に屈めて、他の片手に握れる一管の筆に、妙巧の腕振ひて、神來を陶面に湧き出さしめんものと、屹と身構へせる邊りに、花まさに蕾みせんとする一人の乙女、うしろなる椅にもたれ、茫然として立ち佇み、恍惚之れに見とれて、全く其神を失へるもの丶如し。是に於てか、此圖の作者則ち題していふ「美術は能く心を虜にす(Art wins Heart.)」と然り男もすなる美術は、よく女人の心を虜にするものなり。

夫れ、男子は憐み女子は崇む、これ、男子の戀と女子の戀との著しく相異るところにして、其特質の神髓なり。されば、かの多くの女人の、男子を觀て戀の心動かしむるには、概ね當の男を讃歎する時に始まるものぞ。このことや、古へより其の道に巖みいりし人の、口を揃へて證しせるところにして、今時の戀の論者も、皆な異存なく、一切に認むるところなれば、最早や言ひ拒むべき樣なし。しかるに、女人の戀を形づくるといふ斯の讃歎の情なるものは、我が眼に驚くまで何事か秀で優れ擢んでたるものに接し觸るゝに非ずんば仲々に起り難きものなれ。讃歎とは、是れ何物にか我が心の大に打たれて、初めて起る情なるぞ。

宇宙は奇跡なり、人間も又奇跡なり。天地萬有素より皆な秀で皆な優れ皆な擢んでたるものなれども、其眞と善とは仲々に奧妙にして、容易に姿顯はすことなければ、並々の凡眼には、認められざれ、たゞ美のみは、天地万有の化粧身だしなみなる故にか、容易く人の眼に映りて、その心を動かすなりされば、天地のうちにて、何物か最も能く人を驚かして、讃歎の情を盛んならしむること容易なりやと問はゞ、美は即ちそのものなりと答へんか、之を人間に就て考ふるも又同じ。眞理の研究に身の蝕るゝを厭はざる學者は、素より秀でたるものなり、驚くべきものなり、刻苦自ら厭はず、善行たゞ是

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

れ力むる道德者も、又素より優れたるものなり。摑んでたるものなり。されど、是等の人を觀て驚き崇むるは、まことに凡俗のことに非ず、必ずや能く微塵の細に徹透して、天地の大道を玩味し得る人ならざるべからず。智慮至鈍にして靈覺格らざる婦女子の輩、如何で此事あるを得んや。偶々もし道家と學者とに驚き崇むることありとするも、そは非凡にして如何の鈍眼も到底見逃す能はざる傑人に就てのみ。夫れ學者は陰氣なるものなり。道家とは堅くるしきものなり。共に人の目に觸れ難し。

是に於てか、最も多く世の婦女子輩に讃歎の情を起さしむるものは、學者と道德者とならずして、常に美に關はること多き美術家なりといはんか。美は凡て華やかなるものにて、之を主とする美術は、素より華やかなる業務なり。之れに從ふ美術家も、又等しく花やかなるものなり。而して、凡そ華やかなるものは、人の眼を奪ひその注意を惹くこと易し。猶ほ黒縮緬の人の眼に觸るゝこと少なくして、唐縮緬の友僊染めなるが、却て途行く人を反りかへらしむるが如きか。されば學者と道德家とにして、女人を歸命頂禮せしめんほどのものは、一世に雄視する底の碩學達人ならざるべからず。されど、美術家に至りては、如何に拙劣なるものといふも、なほよく女人をして、其華やかなる妙技に感動して、讃歎の情を盛ならしむるを得るなり。既に讃歎の情盛んなれば、その人を戀慕渴仰せんとする心の、自ら之れに續くものあるは、誠に自然の道行ならずや。況んや、美術初一の目的は、觀るものゝ智力と意力とに訴ふるに非ずして、その情感を動さんとするものなるに於ておや。故に以爲らく、男もすなる美術は、女人をして能く讃歎の情を起さしめ、その心を虜にするものなりと。

昔、吉原の花魁に七越なるものあり、初會の夜、ふと左甚五郎が、敵娼待つ間の暇つぶしにと、床の間の柱に鼠刻み居るを觀て、深く其心を動かし甚五郎の風貌甚だ昂らざるものあるをも厭はで、自ら進んで其妻たらんことを求めたりとかや。これは、天下の一品とも見るべき、甚五郎の如き大美術家のみの獨り私すべき好運に非ずして、如何なるヘッポコ美術家にも、又常に見らるゝところなれ。世には、役者買ひなるものに執心にして、かの大根役者また馬の脚などにさへしけ込む女性の多きも、又彼等が美術家の末班に加はりて、その藝術により女人のこゝろに讃歎の情を發起せしめ、續いて渴仰戀慕

の想ひを痛切ならしむるが故なり。如何ばかり拙劣なりとて役者は遂に美術家にて、演劇は美術の堂々たる一科たるを、如何せんや。希臘の古き物語に、美を司り給ふ神の、常に戀の神にまし給ふも、げに理りならんかし。

●●●●●●●●詩人も又美術家なり。古へより詩人文學者といへば、皆な多情にして、數許多なる女哉はし、誠に淺からぬ罪作れる色師の如く囃し傳へらるれど、その、此迄も多くの女に關はりあるに至るは、必ずしもその詩人其文學者の、自らもとめて作るものならずして、かの華やかなる詩文の美に打たれたる女人輩の、その優れ擢んでたるもののあるに驚き、讃歎の情措く能はず、しきりに戀慕渇仰の心動かして、我れも／＼と其周圍に取捲き來るより多くは起ることにて、万止むを得ざるに出でたるものなるべし。これぞ、多くの詩人が、一見戀の勇者にして、無頼放蕩の色師たるが如きの觀ある所因なれ。故に以爲らく、詩人の數數多なる女に關りつけしは、關はりしに非ず關はらしめられたる也と。是に至りて美術家と戀愛との相連環する所、自ら瞭然たらんか。されば、人よ、世にありて女人の歡心を買ふこと多からんと希はゞ、須く行て、爾美術家となるべし。

留守宅

妾

君が夢にも　いろならん
よな／＼ともに　きゝなれし
窓うつあられ　音しげく
夜半の嵐の　聲寒むし。
枕そばだて　うち見れば
子等はほゝゑみ　眠りつゝ
父が旅ねも　わすれけり
母がねざめも　知らぬなり。
はかなきひまの　わかれにも
永遠くちぬ　賜を
人に賜ひし　御めぐみを
其たび／＼に　さとるかな。
今夜あくれば　またひと日
歸ります日の　近づきぬ
子等が折る指　ひとつへり
待つ家づとや　數まさん。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

海舟先生高談

續海舟餘波
禁轉載

◎新島が大學を建ると言つて來た時、左樣言つた、お前さんは千兩の金でさへ、さう扱かつたとの無いのに、十万と云ふ金を募ると云ふのは迚も出來ないから、をよしなさいと言つた。すると、西洋人が大相贊成すると言ふから、それだから尙ほいけないと言つた。其時大相怒つて歸つて仕舞つたが、二三年は少しも來なかつた。すると、顏色衰ろへ、大相弱つて出て來て、「前年仰しやつて下すつた事は、今になつて始めて分りました、モウ實に有がたい、私は餘計の事を初めかけて大相困る」と言つた。ソレデ、私は言つた、『お前さんも此程の事をして一度失敗して氣が注いたからは、今度は本當の事が出來ませうから、そんなに弱らないで、緩つくりとお休みなさい』と言つた。「左樣仕舞ふ」と言つて、大磯へ行つたが、二三ヶ月すると、とう〳〵死んで仕舞つた。

◎ソレで、〇〇や、△△や、何◎◎や、〇〇などを呼んで、そふ言つた、『同志社は、もふ之でつぶれから、潰れると思つて銘々別れて、夫々小さなのを創めなさい、新島にも村夫子でなさいと言つた程だから』と言つたが、用いなかつたが、どうだい今では。

◎新島は、少しは出來る男だと思つたから、夫でひどく言つてやつたのさ。初めから、迚も出來やしないと言つたのさ。だふして、佛徒などの初は、大した苦勞だから。僅かに五六人しか有りはしないが、其の人々の苦心と云ふものは、エライものだ。第一、學問が淵博で、外の事を大そうよく知つて、夫から自分の宗旨の事を言ふのだもの、新島などは、ただ佛敎が悪るい〳〵と言ふ丈のとで、何も知りやあしない。わしの方がまた佛書を讀んで居る位いだもの。夫でどふして出來るものか。耶蘇の人は是迄何も出來やしないよ。〇〇でをあの通りさ。夫で、新島の死んだ時に、ミンナにそう言つたのさ、どふせ、つぶれるかと、潰してお仕舞ひなさい、そして銘々自分丈の一機軸を出してやるが善いと言ふたれけども分らない。

◎ホンの一時の興にのつて、聞く〳〵のがあつて、夫で敎が弘まると思ふと云ふ、そんな事でどうなるものか。

◎イヤ誰が贊成するの、コウで都合がいゝなどゝ言ふ、ソン

なとで教が弘まるもの乎。

◎夫でも、新島が死んでから、教の勢が減つたやうだ。

◎佛徒では、いゝものは無い。洪川が善いと云ふので、ワザ〳〵行つて見たがね、どふしてまだ〳〵アンなとでは。俗氣がわつてね。マア、近ごろでは、行誡一人は、大分よかつたよ。

◎コノ間、〇〇が來たから、輿に乘つて、問答をやつて見たら、少しも應接がなかつたよ。

◎坊守は、寺の再建とか何とか言つて、金ばかり取りに來るがね、コッチの意見は、寺はつぶれるに任せるが善いと云ふ持論だ。

若松賤子君四周忌日

紫菫山人

おもかけをおもひうかへて見つるかな
　小瓶に向ふ水仙の花

なか〳〵にきよき色香そうらみなる
　さかすもあらなん水仙の花

なき君か清きおもかけうつし見ん
　雪さへ今はきえんとそする

君のまきし園の小松はおいにけり
　千代のみどりやゆつりおきけん

春かすみかゝらぬ月そうれしかる
　みそらの君をしのふたよりに

ともに見し人のおもかけにをふかな
　うめさくやとの春のよの月

戀詠

浮究の∴

戀ゆえに　登りし我が眼
神が贈りてし　瑠璃の眼鏡な
うれしやな　大悟豁然
發き觀んか　女人の胸底
探ね當んか　眞善美

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

人靜なれば　人心洶々
天地聲あり　亂有肅然
ハレルヤ　ハレルヤ
我におり熱き情
胸におり赤き唇
ハレルヤ

盆梅をよめる

小此木麗花

山見れば　雪なほしろし、
庭みれば　霜はたしげし、
　さゆる風、　こほる雲、
あはれ　春やいつく。
春來ぬと、
まづ告げそむる、　ものはこの花。
春ありと、
まづ告げはたる、　ものはこの枝。
君ならで、　誰かは今し、
春きぬと、　知りそめましや。
君ならで、　誰かはこゝに、
春ありと、　たのみてましや。
あはれ〳〵、　身にそふ友よ、
こゝろして、　我ため匂へ、
　うつくしの花。

隨感

朝聞道而夕死可

道の道とすべきは常の道にあらず。左れど、常の道と常にあらざるの道と二つを併せ達觀して、彌よ益す道の變化玄妙を識る。其の高さ究めがたく、其の深さ探りがたく、其の微、其の大、其の遠、其の近、皆な測り盡しがたし。其の顯現して人々交誼の間だに存するや、或は嚴然たる義となり、或は温平たる德となる。其の高遠にして天の文に現はれ、其の幽邃にして地の文に潜むや、微明玄通にして彌よ妙なり。われ日々に之を學び之を思ひて、日々に其新らしきを知る。此を知るとの樂しみや無上の祝福なり。何んぞ必すしも之を事實に擧行して而て後ち其の結果を見ざる可らずと言はんや。古人此の感を告げて曰く、朝たに道を聞いて夕に死すとも可なりと。既に道を聞くの樂しみを得たり、行ふと行はざると、行なつて其實あるとなきと、亦何んぞ憂ふるに足らんや。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

寄書

中央文壇の二大異彩

朝天行

内村鑑三と青柳有美

今や信濃の幽谿に蟠屈して、淺間ヶ嶽の大黒煙も及びなき、白熱の氣焔を高揚し乍ら、地獄の沙汰も金次第の、三國傳來の如來の光明を壓倒しつゝあるを、姓山路の愛山と號する人なりけむ。嘗て基督教界の二大文士として、正久氏の筆路を、春の野の若草の萌出る樣に比し、鑑三氏の筆力を、碧空秋星の燦くに比したるなど、今尚ほ微に記憶するか如く覺ゆ。然れども我は更に常陸山に梅の谷の對する如く、堀越阿洲に對左部の對する如く、中央文壇の二大異彩として、一方には深刻、沈痛、義憤に富む、内村鑑三氏を推し、一方には洒脱、清健、熱情に富む、青柳猛君を推さんとす。

若し世人が前二者の外に、中央文壇の二大異彩を求むとせば、齋藤緑雨と、宅雪嶺氏ならむと雖も、我は渠等を以て中央文壇の二大異彩とは許する能ず。我は齋藤緑雨の當今有數の天才たるを知る。然り彼は毛錐を弄して蛇毒を吐くときにのみ天才なり。その人物、その性格に至ては、彼は深き修養鍛錬を經て崇高偉大なる人生觀世界觀を道破し來り、而して其根本思想の上に彼の天才は築れたる者にはあらで、單に淺き意味に於ての所謂浮世の閲歴家たるに過ず。故に其觀察は深刻なりと雖も、其謂ふ處ろ清健ならず。其筆致は奇警なりと雖も、其文字は泥臭を脫せず。之を青柳猛氏の泰西文學の素養を有し、基督教倫理の鍛錬を有し、高調激越の信念を有して、而も人生の美妙の側面を代表し、馬車馬の如き義人聖者の亞流に向つて、皮肉の聲を高嘲する者とは、敢て同一の性格ある者と云ふ能ず。我は斯る理由を以て、中央文壇の一異彩として青柳氏を推す。三宅雪嶺氏に至ては我は其半面に於て、大に服する處あるもの、彼の人物は慥に清健なり。彼の性格は慥に高潔なり。然れども我は彼の根本思想、則ち彼の懷抱する人生觀世界觀に至つては大に服する能ざるもの、彼は支那的頭腦を有する日本人なり。我は支那的頭腦を排す。彼は宇内進歩の一敵國たらむとすると共に、其排外的思想を

以て自家の主我主義を代表す。我の視たる雪嶺氏は斯る小摸型の人なり。固より一方面に過ぎすと雖も、其一方面こそ或は氏の根本相を喝破したる者あらむ。之を内村氏の無限絶對なる活けるボルソナリチーの上に、千古に巍然たる泰山の如く立脚地を据え、人種國家の異同を論せず、徹頭徹尾、人生の暗黒面を否定せんとする、深刻沈痛なる世界的義人の仕格ある偉人とは、到底同日の比にあらず。我は斯る觀察を以て、中央文壇の一異彩として内村氏を推さゝるを得す。

天地に明暗の別あるか如く、わか人生も明暗の兩側面を脱する能ず。此處に於てか涙を振つて其暗黒面を否定するの義人起り、清健なる倫理的思想を有して、而も光明の側面を歌ふ詩人起る。我は人生の美妙を解せざる義人の、眞個義人たる仕格を有する者なるやを疑ふと共に、人生の醜惡を解せさる詩人の、眞個詩人たる仕格を有する者なるやを疑ふ。然り義人は人生の光明を解せざるにあらず、唯光明の側面を解するよりも、より多く暗黒の側面を厭ふものにて、渠か熱烈なる憤慨の文字の裏には、萬斛の血涙を湛へつゝあるは勿論なり、かの斷腸的義人なる耶利米亞の悲語哀句の如きは、眞に我等の情緒を寸斷するの悲語哀句なるを知る。眼底涙あり皮下血あるの好文字とは、渠の言説にあらずして何ぞ。然れとも渠は詩人にあらず預言者なり。熱情を以て純化したる大義人なり。渠の根本相は万軍のエホバの正義に在り、故を以て渠は人生の美の方面よりも、國民の罪惡をより多く悲歌憂嘯したる者、要するに渠は大詩人の情緒を有したりと雖も、渠の時代と境遇は渠の道念を驅て、竟に一個の義人たらしめぬ。若し夫れ人生を歌ふ詩人に至ては、義人の嫌厭する暗黒の中より光明を攫取し來る者にて、其手は同情の白熱を以て煨ひ、其眼は悲哀の熱涙を以て潤ふ。渠は娼婦の心裏にも、惡漢の情緒にも、女郎淫婦の胸中にも、美妙の寶球を攫取せされは已む能ず。渠は義人が視て以て暗黒の世界なりと否定する、渾沌たる罪惡の淵より神の子の光を發見する者、かのセーキスピアがダンカンを横殺せしめたる、マクベス夫人の口を借て叫ふを見るに、「あゝ此手を洗ひ得る者は誰そ」と、これ、義人が人生に提供する疑問にはあらて、詩人が千万無量の同情を込て、天地に高叫する大問題にあらずや。渠は人生の醜惡を解せさるにはあらで、餘に其醜惡を了解したる結

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

果、鞭韃縱横ならしむる能ざる所以にして、之れ詩人の偉大なる所以ならすむはあらす。斯謂はとて我は素より内村氏を以て耶利米亞に比し、青柳氏を以てセーキスピアに比する者にあらず。されど内村氏が當今の日本に於て、正義の鞭韃を縱横ならしむるあると、青柳氏が得意の悪魔主義を絶叫する者あるとは、万事に規模狹少にして抱負脆弱なる、目下の我邦に於ては、最も有數に最も偉大なる、天來の聲と謂ふ可きなり。我は曾て内村氏の基督信徒の慰めを讀み、渠の熱情の非凡にして、其着想の偉雄なる者あるに一驚を喫し、更に求安録を繙讀して心靈的實驗の容易ならさる者あるに、憮然として自家の狹小なる者あるを悟りぬ。渠は斯る非凡の情熱と心靈的實驗とを以て、高調なる倫理的觀念を鼓吹し、當今の社會に向つて正義の聲を縱横疾呼する者、渠自身は義人たるを意識せず、亦義人の名稱を甘受せざる可しと雖、社會は渠を目するに天下第一等の義人を以てする者なり。渠は正義を叫ぶが爲には、其姿勢殆むど狂犬の如し。渠は正義の觀念の中に不穏の情熱を含みたるが故に、其視力に觸る處の者には一として發火せざる者なし。渠は政治家を罵り、文學者を罵り、宗教家を罵り、富豪を罵り、社會を罵り、時代を罵る。渠は得意なる者の頭上には、痛罵の鐵拳を加るにあらされは、絶て平然たる能さるなり。渠は渠の自稱せるか如く繼見族の代表者なり。渠は社會に殘遇せらるる悲運児の良師友なり、然れども渠は正義の觀念を離れて總ての者の友たる能はす。渠は自家の正義の規矩に反したる者なりせば、十年の知己と雖も之を放擲するに吝なる者にあらす。渠の同情は正義の觀念よりも弱く、渠の哀涙は正義の義憤よりも少量なり。渠は正義の爲には實に千里獨往の大勇あり。社會と我か渠を以て天下第一等の義人と爲す、大に根據あるの觀察ならすむはあらす。

青柳君に至ては我は殆むど知らさる者、然れども渠か「鬼面百相」を讀み、悪魔の結婚觀を讀み、佳人の七道具を讀み、跋を熱海のさまよひ日記などを讀み、之を深きに玩味せば、渠か一世の主張本領、渠か稀有なる人格性情等は、躍々我等の眉宇に活現するを視る。渠は内村氏の正義の觀念の上に堅立するに反し、人情の美の上に確立する者なり。故に渠は鬼面百相に人性の弱點を衝き、悪魔の結婚觀に戀愛の弱點を突き、佳人の七道具に皮肉を穿つと雖も、之れ内村氏が社會の暗

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

黒面を痛罵せると一班、人情の弱點に痛棒を加へて、自家の聖美の理想に啓誘せんとするに過ず。本點に於ては内村氏が正義の觀念に、深刻なる情熱を加味して、社會の側面を否定するが如く、渠は聖美の觀念の中に、深刻なる狂熱を湛へて、氏が得意の惡魔的觀察を試むる者、氏は内村氏の否定の露骨なる、短刀直入なるに反し、頗る翻弄の妙を極むるのみか、亦多少の艶氣を自然に含有して、内村氏よりも一層甚しき否定の聲を叫ぶとあり。氏の惡魔の結婚觀、佳人の七道具を讀たらむ者は、義人たる内村氏の企て及ぶ能はざる翻弄の妙を極むると共に、或意味に於て渠よりも甚敷否定の聲の響くを聽く。然れども渠の惡魔主義の本領は、人情性格の弱點を喝破するのみに顯る者にあらて、社會の暗黒面を否定せんとして、其内に包含する美妙の砂金石をも粉砕せんとする、義人の專横に向つて反抗するに在り。我は敢て正義の專横とは謂はず。正義は天上の神の物にて、地上の義人の物にはあらず。神の有する正義は天地六合の水分を以て包擁せらるゝか如く、慈悲仁愛の聖美を以て包擁せらるる者なり。地上の義人は此慈悲仁愛なくして正義を濫用す。故に義人の叫ぶ正義は神の正義にあらずして、單に小義人共者の正義なり。爰に於て正義の專横と謂はんより義人の專横と謂はんかた適評なるを認む。我は義人に反抗するの聲を以て、基督かラサロを蘇生せしめむとする時、墓地に臨みて石を取れよと命し給ふの聲に似たりと謂ふ。何となれは義人等の叫ぶ正義の巖石の下には、不幸にも蘇生する能さる無數の慘憺見あるを以てなり。嗚呼石を取れよ石を取れよ義人の叫ぶ正義の石を取れよ、之れ青柳氏の不言不語の中に聞ゆる惡魔主義の聲にはあらすや。

斯の如く觀察し來れは、我は義人の叫ぶ正義の聲を以て、地獄の聲なりと謂ひ、人情家の惡魔主義を以て天堂の聲なりと謂ひたき程なり。然れども之れ亦我の甚しき惡魔的觀察より來れる者、顧みれは夫程までに義人の正義も否定す可きにあらず。我は渠等の聲をも慥に天來の清音に近きを確認すると共に、人情家の惡魔主義、別言せは詩人の人情主義も天來の美音なるを確認せすむはあらす。我は正義を叫ぶ内村氏の如き、惡魔主義を叫ぶ青柳氏の如きを有する、日本文壇の實に偉大なる者あるを悦ぶと共に、讀者は二氏の外に誰に依て、中央文壇の二大異彩を求めむとするか。

○廢娼論　名古屋に於ける娼妓脫楽事件ありてより、廢娼論大に勃興し、每日新聞中堅となりて勇壯なる奮戰をなしつつあり。島田三郎君が奮闘せらる、時下痛快を極むるの觀なり。

○埼玉縣の非公娼同盟會　川越町には今度遊廓設立の議あるより、有志者は之を撲滅するため、去る十一日非公娼演說會を同町に開き、堀口貞利、五來欣造、阿部磯雄、木下尚江、島田三郎の諸氏演說し、終りて牧師石河和助氏より非公娼同盟會組織を計り滿場の同意を得たりといふ。會長に推されしは發智庄平氏なり。

○女子閨風會　大阪市にて女子閨風會と云ふを起し歌道講究を爲し鴻池安子、葉櫻ヶ子等數人の發起にて會長に鴻池安子、副會長に鴨田芳枝幹事に田子田鶴子菅谷夏子吉田繁子等當選せり。

○宮城婦人會の事業　さしては慈善事業を開始するの計畫にて目下役員間にて取調中なるが、又孤兒院設置の見込なりと。因に過般評議員會にて幹事十二名を互撰したるが其幹事は早川夫人、和邇夫人、錦戸夫人、下條夫人、清水夫人、諸夫人を始め西森せん、天野ふう、林澤いろ、白石つねよ、中川つる、喜多見サキの十二子なり。

○女生學校に迫る　栃木縣河内郡國本村本村高等小學校裁縫科女教師須藤信子の解任を歎じ、女生三十名村役場に迫る。

○備前赤坂郡　に於て婦人會を設け、去十一日創開す。

一夫一婦（白男）　女子教育と其婚期、佛教者の女子教育　中央公論（十五卷二號）

婦人協風會と佐々木四郎夫人　婦人新報（三十四號）

血族の婚者心得　大日本婦人教育會雜誌（百廿一號）

城山の春波樓（町田榮子）　日本赤十字（八十二號）

一名在婚姻婚者年齡、同上年齡の實際　統計集誌（二二六號）

大節に臨んでは親子夫婦も合併に及ばず（福翁余話）　時事新報（二、十一）

御料林の御約束に付き　時事新報（二、十二）

社會階俗の犧牲（婦人の不幸）（幾三）　万朝（二、十）

帝及び后（霞宗）　日本（二、十四）

清國婦人のお化粧　二六（二、廿二）

女子成人の費用　二六（二、廿四）

夫人の素顏（益田榮子）　報知新聞連載

廿世紀の美人（米國婦人社會の新潮流）　讀賣（二、廿四）

女流の出場（宴會改良の希望につき）　報知（二、十八）

北京の婦女（竹島閑人）　日本（二、廿三）

才媛美談　千代田日報連載

松平岩子。東園増子。

閨秀美談

沖田千代、伊豫國南宇和郡一本松村字上大道益田辨太郎娘、幡多郡宿毛町沖田辨次妻（富士新聞、二、十）。近藤ブン、小石川水道町卅二番地（憲政新聞、二、十）。小副川竹一娘セキ、佐賀縣佐賀郡小關村字小副川（東京日々、二、廿二）。石原藤一郎妻ナホ、富山縣新川郡上中田町（富士新聞、二、十五）。木村源兵衛娘カブ、淺草七軒町四（中央新聞、二、二七）。（佐賀縣佐賀郡小關村大字大の原小副川竹一長女關十七年（富士新聞一月廿七日。北高城郡高田停車場前旅人宿吉田屋方酌婦木口シナ（同上、一月三十日）

一、村田氏自由傳道へ寄附

○村田君の自由傳道を賛成し金五圓を寄附す。金額は水口本人へ直接送金可仕故に貴務の紹介を謝す。　大阪市、某

○金三圓…………………………東京巣鴨。原田ユキ子

○金壹圓…………………………相州三浦。田中柳子、田中芳美子

本書依出版以來非常に好評を得て忽ち三版を賣り切れと相成今回更に四版を發行致し特別に女服改良案並袋物引袋掛襟作等裁縫方詳細圖解に發表を添ゆ　正價金五拾錢

天下無二　内務省販賣▲東京有名裁縫師野口金四郎著　第十五版

和服裁縫口傳書 全

特別大割引金四拾錢　郵税四錢

●代金は取手郵券代用一割増し

本書は袷羽織袴角袖コート振袖留袖三枚重ねよく其外何品に限らず苟も和服の裁縫に係る事は一切洩さず耘り方縫方等數百種を如何なる初心の人にも極めて解し易き様圖解を入れ恰も手を取て教ゆると同様に記載あり殊に裁縫業には尤も大利益あり又御婦人方には大便利なる良書なり

附錄 茂太夫屋衣御祭り立襟新形古形女合羽子供合羽等裁方縫方詳細に圖解し發表

洋服裁縫法 フロックコート、ヅボン、シャツ、チョッキ、裁方詳細圖解書

●發行所　茨城縣北相馬郡取手町

●和服裁縫術速成教授専門　野口裁縫教授所

毎月一回十日發行

雜誌 無絃之響

（○定價表　内國郵税）
一冊定價四錢五厘　半ヶ年分定價廿七錢　一ヶ年分定價五十錢

主義は心中に存する者、言語は其宣しきに隨ひ可き而已　世に二三篇の文を掲げて滿する所の主義を此に掲げ以て盛名を晩年に垂れんと欲する者より吾人は斷の如きに倣ふを皆好む意とせざる也　我は自ら千篇月日年紀を經過するに隨て、四方の事是とすべきは之を是とし非とすべきは之を非とし、是とし非とし、幾多其非の間始めて彷彿として主義の顯はるゝ在らん、之れを示して以て吾人の主義を唱へん、故に必竟我が主義の如何は讀者同人の呼ぶに任して敢て之を鼓吹宣傳せず只だ前面月に月刊を重ぬるに委し地方未見の同人に一片の主義を傳へんと欲する而已　希くは同人此意を諒せられんことを、我が無絃之響は雜誌の爲にせず主義發表の爲にするなり、若し雜誌を作るが爲に刊行するの意なりせば、讀者に妥協を吐き徒らに奇を衒ふも可なり、百事を包容するも可なり、紙質幹裁に重きを置くも不可なけん、其他巧なる寫眞挿畫版に人目を驚かすも珍奇興味なる趣向に依つて讀者諸氏の意を迎ふも皆可ならざる無し、然も斷る事は吾人の堪ふる能はざる所、尚は日本の雜誌の新刊主義に異なる所、故に余輩は此々斷の如き一ミニヨウグラフ版の小冊子とは雖も敢て自重するところなく謹慎の信念を以て之に對し庶ねは其の發達と進歩とは遠く將來に期し以て益々勉め盡さんと欲す、希ひ望むらくは世上特に女學雜誌愛讀の諸君子諸姉淑女諸君主義に贊して此際益々讀の榮を與へよ

明治三十三年一月　嚴本露草

御注文の方々は郵券代用にても宜しく候尚又本會事務其他編輯上の件に付き御相談を申越されんとする方々は何卒本會内荻原守衛氏宛にて願はしく候也

發行所　巣鴨村庚申塚　露草會

故若松賤子女史譯述

再版 小公子

全一冊洋装美本　紙數三百五十頁　正價金三十五錢　郵税八錢

近代歐米の讀書社界を震動し、劇場に演ぜらるゝを數十百回、一代の流行を左右して一時年少の子をして悉皆小公子の如くならしめしと云ふは、此書原本奇代の勢力なり、純潔無邪氣、天使の如き少年は、頑固偏屈の老侯爵を感化す、德に隣あり、母に作人あり、貧しきを憐み、小作人を愛撫し、言行慈仁甘露慈雨の如く、讀去り讀來るうち、讀者亦自から化せらるゝを覺ゆ、何ぞ其の可憐純潔なるや、少年固より讀まざる可らず、婦女老人亦讀まざる可らず　賤子女史嚢に其前篇を譯して世に公にするや、譯文の巧妙なるを以て亦た一時に喧傳す、森田思軒居士之を以て明治年間譯文の最上乘のものとし、激賞措かず、曾て其第一頁を見て忽ち驚き、一夜通讀、曉に徹し遂に卷を廢る能はざりしと云へり、然るに女史其後篇を公にするに及ばずして不幸長逝し、知人愛惜の情を禁ぜざるもの切なり、即ち茲に其遺稿を收め、女史が一周忌日に合せんとして前後二篇を合せ刊行せしむ　其友潮堂中島女史は字を題し、細友松井昇氏は挿畫を附せり、同好の士、希くは一讀を賜へ。

出版元　東京日本橋區本町三丁目　博文館

大賣捌　東京巣鴨村庚申塚　女學雜誌社

明治二十三年五月十五日遞信省認可

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

明治二十二年五月十九日觀信者認可

（五〇上八）

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY